

当院の概要とがん登録室の紹介

当院は岐阜県岐阜市にあり、病床数 620 床の中核病院である。移植医療を除くほぼ全急性期疾患を対象としている。平成 17 年に地域がん診療連携拠点病院指定。地域の医療機関と密接な連携を取り、より高い医療の提供に努めている。がん登録室は現在、常勤職員 2 名（中級認定者）と非常勤職員 1 名（初級認定者）で業務。がん登録ソフトは国立がん研究センター提供の Hos-Can NEXT を使用している。

がん登録室のモットー



「協力和学びと改善」の3つのワードは今後のがん登録に必要不可欠。

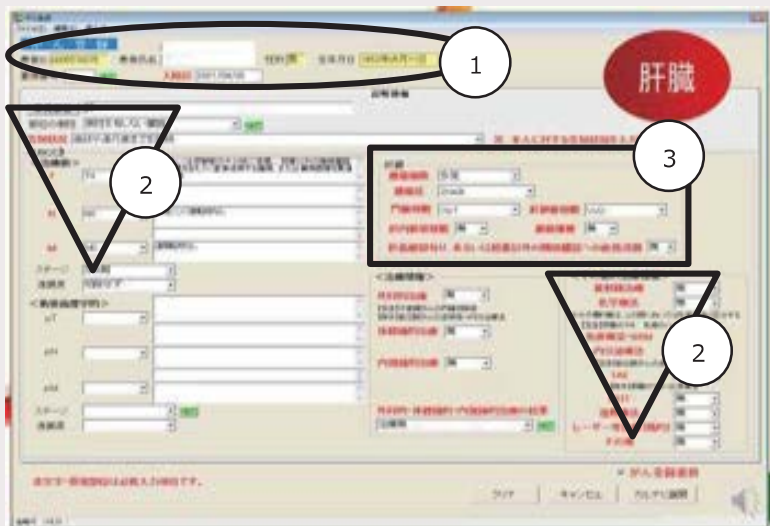
1. 医師とのコミュニケーション
2. 院内がん登録支援や SNS の活用
3. 他施設との交流
4. がん登録室全員が

「同じ考え方」

「同じ知識」

「チーム作業」

■ 協力の取り組み ■ 〈がん登録サマリ〉



- ① 患者 ID・名前・生年月日・住所がカルテより自動的に取り込まれる
- ② 原発部位・告知状況・TNM 分類・初回治療情報の入力
- ③ 肝臓に関しては、カルテより拾うことが比較的困難な腫瘍個数、腫瘍径、門脈侵襲、肝静脈侵襲の有無の入力

がん登録サマリは Hos-Can NEXT と連携されるようになっている。各診療科の医師に、がん登録サマリの入力依頼を行い、UICC、取り扱い規約ともに TNM 分類、進展度など迅速に登録することが出来る。

■ 学びの取り組み ■

学びの部分では、共有フォルダ「**がん登録学習帳**」を作成し、がん登録室の皆が入力、検索ができ、学べるよう活用している（図 1.2.3）。



図 1.部位・解剖・TNM 分類についてのシート



図 2.組織関連についてのシート

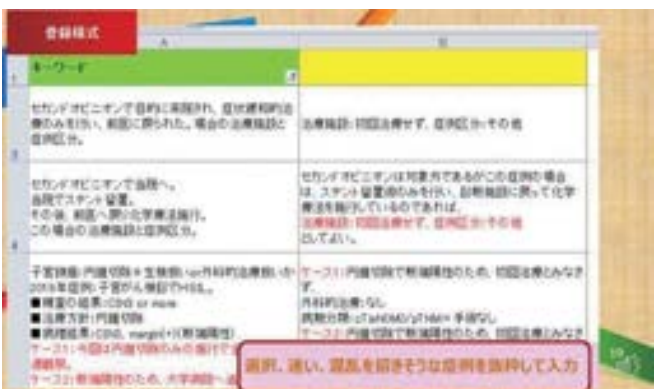


図 3. 登録様式についてのシート

〈がん登録学習帳〉

Exel で作成し「部位・解剖・TNM 分類」や、「組織関連」などジャンル分けをして、どのシートもキーワード検索ができ、登録の際に悩んだ事や調べた事などどんな事でも入力している。

選択、迷い、混乱を招きそうな症例を入力することで今後の登録に繋げていく。

〈コミュニケーション〉

様々な症例があり、登録者の個々の解釈の違いによって登録のバラつきが出たり、違った考えにならないように登録者間で**コミュニケーション**を取り、がん登録支援、がん登録 SNS をフルに活用し、他施設との情報交流、勉強会などに積極的に参加している。

■ 改善された点 ■

- ・「がん登録サマリ」から ID や名前などの基本情報が取り込まれることによって、入力ミスや入力時間の削減につながり、また、TNM 分類の判断、治療の有無など難しい症例もスムーズに登録できるようになった。
- ・電子カルテシステムと Hos-Can NEXT が連携されることによって、登録症例が取り込まれ、ケースファインディングによる 症例見つけ出しの削減にもつながっている。

今後の展望

1. 常に効率化を考えていくとともに、登録者の知識習得、正確性の向上を目指す。
2. 2年後に電子カルテシステムの改定が予定されているが、それに向けよりがん登録の効率が上がり、使いやすいシステムの構築に取り組む。